



水キラキラ 町いきいき入善

# 議会だよりの入善

GHKAI

DAYORI

NYUZEN

No. 134

2005年7月27日



みんなで作った七夕がさり (舟見保育所)

6月定例会

平成17年度補正予算

2P

農業委員の推薦

3P

町政を問う 代表・一般質問 (10議員)

6P

入善町に移り住んで・入善のむかし話

16P

# (株)サンリッツの進出に支援

## 5月、6月補正予算の概要

5月臨時議会では、株式会社サンリッツの入善進出に伴う工場用地取得、造成及び周辺整備で、9億9646万円の補正を行った。6月定例会では、幹線道路整備、地産地消推進事業や地域ボランティア推進などを追加し、補正額を1億3022万円とした。これにより一般会計の総額は106億9598万円となった。

### 6月補正

高齢者の交通安全指導などに  
25万円

高齢者の交通事故防止や安全運転指導など、高齢者の交通安全事業を行う。

65才以上を対象に、入善自動車学校に委託し、年に2回40名程度で交通安全教室などを行う。

地産地消の推進事業に

15万円

地元の野菜生産者がスーパーなどで常設の販売コーナーを設置した場合に、その設置費用に対し県と町で助成を行い、地産地消の推進を図る。

幹線道路の整備に

1億2800万円

(株)サンリッツや入善駅北側へのアクセス道路として、町道市入膳線などの拡幅や路肩改良を行う。

地域ボランティア推進に

163万円

ボランティア活動の活性化や相互に支え合う地域社会の実現のため、「さわやかあいさつ運動」などを行う。



(株)サンリッツ周辺道路の整備工事

### 5月補正

(株)サンリッツの進出に支援  
9億9646万円

今回、入善町に液晶ディスプレイ用偏光板などを製造する(株)サンリッツが下野・田中地内に進出することとなった。

(株)サンリッツは、早期操業を希望しており、町は農地転用、開発行為などの許可をスムーズに得るため、開発主体となり、1日も早く操業ができるよう支援することとなった。

そのため、工場用地の取得や造成工事、水路、専用排水路の整備などを行う。

## 請願・陳情

## 議員提出議案

◎ 町道寺川線から桜並木への道路拡幅及び遊歩道取付けについての請願書

請願者 横山代表区長 ほか

松風団地からサン・ヴィレッジを経由して横山海岸を結ぶ道路拡幅及び遊歩道の建設を求める請願。

賛成全員で採択とした

◎ 町道八幡小学校線と県道藤原横山君島線間の道路延長についての請願書

請願者 横山代表区長 ほか

諏訪神社東側の行き止り道路の延長を求める請願。

賛成全員で採択とした

◎ 富山県の最低賃金を、Bランクにふさわしく、引き上げるための陳情

陳情者 富山県労働組合総連合

総合経済指数Bランクの地域にふさわしい富山県の最低賃金の改善を求める陳情。

反対多数で不採択とした

◎ 分権時代の新しい地方議会制度の構築を求める意見書

分権時代に対応した新たな地方議会制度を構築するよう国に対し意見書を提出する。

賛成全員で可決した



改修が待たれる横山の桜並木道

## 入善町農業委員の推薦

7月19日で任期満了となる農業委員に、議会から女性2名を含む4名を推薦した。



藤田 よしみ氏  
入善町新屋  
(女性農業士)



北川 和子氏  
入善町青木  
(女性農業士)



矢木 龍一氏  
入善町道古  
(中核農業士)



佐藤 一仁氏  
入善町横山  
(議会代表)

# 常任委員会レポート

## 総務

真に効果の上がる「高齢者交通安全事業」の実施方法は

Q 近年、高齢者のからむ交通事故が多い。「高齢者交通安全事業」では、効果の上がる方法を検討せよ。

A 今回、県から委託を受けて、65才以上の方を対象に、交通安全教室を入善自動車学校で年2回実施する。定員は各40名と少なく、交通安全協会などと協議し、多くの高齢者が受講できるように検討する。

Q 安全、安心のまちづくりには交通安全と同様、防犯にも力を入れなければならない。その方策はどうか。

A 町は、警察と連携して防犯に努めている。要所には、防犯カメラも設置している。犯罪抑止に地域で運動を展開できるように努力する。

### こんな意見も

◎ 今、スマートIC社会実験の真っ最中。成績は町民各位の協力のもと、順調に推移している。

最後まで、良い成績を残して実績をつくり、国、公団に働きかけて、本格的ICになるよう努力せよ。

## 教育福祉環境

「地域ボランティア活動推進事業」の目的は何か

Q 地域ボランティア活動推進事業が補正予算化された。その経緯と目的は

A 今回、国から委託を受け、県内では入善町と氷見市が取り組むものである。

一人ひとりがごく自然に、日常的にボランティア活動を行い、相互に支え合うような地域社会の実現を目指し、地域の教育力を高めることを目的としている。

Q 国の委託事業があるからと、ただ事業を消化するということではなく、これを契機に今後どう展開するのか明確にして取組め。

A 従来から、各地域、団体で活動していたボランティア活動事業を継続発展させる事業である。

「みんなでワクワクボランティア」「汗光るキラキラボランティア」「入善町さわやかあいさつ運動」などを進める。

Q 最近、ボランティアという言葉が乱用されている。当局はボランティアの意味をどのように考えているか。



熱心に学ぶ高齢者のみなさん（入善自動車学校）

## こんな意見も

**A** 「自分からすすんで社会事業などに奉仕する人」であり、報酬を目的としない行為のことである。

ただし、場合によっては活動費やお弁当が出ることもある。

無理やりやらされたり、言われたからいやいやするので、本当のボランティア活動とは言えないと考える。



大きな声で「さわやかあいさつ運動」(桃李小学校)

◎ 町内のごみ収集場でカラスがごみを撒き散らす被害が出ている。カラスの退治やごみ袋に着色するなど早急に対策を講じよ。

◎ 朝ご飯を食べる規則正しい生活習慣が、脳を活性化しイライラをなくし、勉強に集中できるというデータがある。学校給食を通じた食育の推進で、朝ご飯の理解を深めよ。

## 産業経済

産地づくり交付金  
はいつまでか

**Q** 国の農家に対する産地づくり交付金(転作奨励金)は何年度まで続くのか。

**A** 平成18年度中に見直しされ、19年度から新たな制度が導入されると聞いている。

**Q** 今回の道路整備補正はどの路線を対象とするのか。

**A** 道市入膳線、下上野尻江線、入膳新線の3路線だ。交差点安全対策のため100mの延長や、町道の付替えなどで予算が当初より増えた。

## こんな意見も

◎ 今回の補正は、地産地消に力を入れており、評価できる。食の安心・安全のため全町的な取組みを求める。

◎ これまでたくさんさんの請願書が出されているが、緊急性も考慮しながら、確実に実施してほしい。



僧ヶ岳を背景にフラワーロード



## 新幹線、入善IC\*で交通基盤が変化するなか まちづくりをどう進めるか

21世紀の会 広瀬喜代志 議員

### 町長

### JR入善駅とICを結ぶ線を都市軸として進めたい

問 新幹線の開業に伴いJR西日本から経営分離される入善駅、さらには入善ICなど町を取巻く交通基盤が変化するなか、どのようなまちづくりを進めるのか。

米澤町長 新幹線やICは、利便性向上や経済活性化など

による定住人口増や地域力向上につながる、大いに期待している。

並行在来線は、高齢化社会などを見通した地域生活の利便性向上を図るため、新たなまちづくりの契機と考える。

JR入善駅と入善ICを結

ぶ線を新しい都市軸としての町の玄関機能を整備する構想を描いている。

運動公園を中心とするスポーツ・健康・福祉ゾーンと、中心市街地を結ぶ南北線を軸に、活気あふれるまちづくりを推進したい。

#### 合併に対する決意を聞く

時期が来れば議員や町民に相談したい

問 平成大合併は大きく進展した。今後、新合併特例法による国の政策で問題も生じると思うが、町長の決意を聞く。

町長 単独町制を選択したが「町の持続的発展と町民ニーズに的確に対応する行政」を基本としている。

国の三位一体改革が進むなかで、行財政改革の取組みは不可欠であると考えている。

さらに将来の町を見据え、

町民の目線に立って、重点施策を執行していく。

合併は避けて通れない道と思う。時期が来れば議員や町民に相談したい。

#### アワビ養殖事業の基本方針を示す

販路を明確にし今一度アワビとコンブに集中する

問 アワビ養殖事業は軌道に乗っていない。付加価値を高めることや販路拡大などの方針を明確に示せ。

笹島商工水産・深層水課長

昨年度、生育不良や斃死の問題が起き、原因特定のため入善漁協に支援をしている。

販売計画を明確にした上で生産体制を立てていく。また新たな付加価値をつけるための開発も、重要な販売戦略

の一つと考えている。

ウニやガゴメコンブも可能性はあるが、今一度アワビとコンブ養殖に集中したい。

問 入善海洋深層水体験交流施設の整備については、昨年12月議会で先送りとした。今後、この事業を実現していくのかどうか。

商工水産・深層水課長 体験交流施設については、採算性、財源確保などの課題がある。

高齢化を見据えた上で、体と心の健康に結びつく施設の整備が必要と考える。

民間活力による施設整備も選択肢の一つ。後期総合計画に盛り込むか検討したい。

\*IC＝インターチェンジ



本格設置が待たれる入善IC



## 町の地価はなぜ滑川市より高い？ 町発展の阻害要因では

政策フォーラム 西尾政巳 議員

### 税務課長 一概には他市町と比較はできない

問 来年は固定資産の評価替えの年である。

公表された地価調査で、なぜ、入善町の地価が滑川市のものより高いのか。

高い地価は、町の発展の阻害要因と考える。地価が高ければ税収が増えると考えているのか。

金沢税務課長 県の不動産鑑定協会が近隣の売買実例などを参考に鑑定したものであり、本町の全用途の平均は1㎡当たり5万円であり、滑川市のものは、1㎡当たり3万4000円である。

土地調査価格の動向により、税収にも大きく影響を与える側面もある。一概には他市町と比較はできない。

個人のプライバシーをどうまもる

#### 研修会を行い徹底する

問 4月より個人情報保護法が施行された。個人の所得、病歴などプライバシーを知る町は、どう対応するのか。

町長 この条例に基づき、職員を対象に個人情報保護について研修会を行い、法令遵守の徹底を図りたい。

国や県への重点要望の見通しは

#### 7割5分の事業採択である

問 今年度、町は、国や県に31事業もの重点要望をした。実現の見通しはどうか。未採択事業はどう対処するのか。本多助役 国に対し13件、県に対し27件、重複しているの31件中7割5分の事業採択になっている。

国、県と連絡連携を密にし、町のため頑張りたい。

ふれあい温泉を守りつづけよ

#### これまでの支援を引き続き行う

問 舟見ふれあい温泉地域交流ホームは、開湯以来20年も経過すると、設備の老朽化が進み修理費が高む。

アンケートでは、野外露天風呂の要望が断然多い。町としてつくる考えはあるか。

温泉からパラジウムが取れないか、基礎化粧品に利用できないか試してはどうか。  
鍋谷健康福祉課長 運営主体

である舟見寿楽苑の一層の経営努力や創意工夫に期待する。町としてもこれまでの支援を引き続き行っていく。

新規事業が出てくれば、町もどのような支援ができるか検討する。

#### クマ、サル、人の棲み分けを

#### 猟友会と連携し人的被害の防止に努める

問 サルが多くなり、エサをクマより先に多数で食べるため、クマが人里に出るのでは

ないか。

クマ、サル、人それぞれに、棲み分けられる名案はないか。  
浜田農政課長 サルは、舟見山周辺で現在、4グループ、約200匹前後が確認されている。目撃した場合は、銃声にて山奥へ帰している。

今年もクマが最も活動する海拔400m以上の奥山に、クマのエサとなる実のなる木の植樹を予定している。

猟友会との連携を強化し、人的被害の防止に努める。



人里に現れた子熊（舟見地内 平成16年秋）



## 地元の正規雇用枠の確保を条件にすべき

日本共産党 九里郁子 議員

### 町長 一人でも多くの町民の採用を働きかける

問 (株)サンリッツの進出は大いに歓迎だが、用地を企業に

ただで譲ることは、町商工振興条例になく、慎むべきだ。

製塩企業には用地は貸し付けるが、扱いの違いはなにか。

地元の正規雇用枠の確保を条件に入れ、地域経済活性化

のために、建設工事は地元業者への発注を働きかけよ。

町長 固定資産税か年貢かで、有利な方法を検討した。町の自主財源確保が必要であり、今後も全面的に支援したい。

一人でも多くの町民の採用と地元業者への発注を強く働

きかける。

問 将来、企業が用地を目的外に使用する場合は、町への返還を明確にしておくべきだ。

町長 万が一の場合は、議会と協議しながら対応していきたい。

現在の学校給食の充実に努めるべき

「学校給食検討委員会」で検討する

問 町直営の自校方式を継続し、地産地消の拡大に努めるべきだ。

小森学校教育課長 行財政改革の一環として「学校給食検討委員会」が組織された。町の実情に合った給食のあり方を検討する。

問 学力低下や不登校対策で、少人数学級に積極的に取り組み、専任の司書職員を配置す

べきである。

米島教育長 少人数指導のため、町全体で6名の先生と4名の非常勤講師を配置している。

司書職員の配置は必要だが、財政的に困難である。

問 保育所での小規模学童保育を考えてどうか。

健康福祉課長 余裕教室がある保育所は少なく、無理があると考えている。

町営バスは利用しやすいよう再検討せよ

10月にタイヤを改正する

問 町営バスは、台数増をはじめ、所要時間やルートの変更など再検討すべきだ。

あさひ総合病院への通院可能なバス運行を検討せよ。

商工水産・深層水課長 町営バスは、10月にタイヤ改正す

る。朝日町の公共バスと連絡できないか検討したい。

入善駅ホームの階段にリフト設置を

JRに働きかけたい

問 入善駅ホームの階段にリフトを設置するようJRに働きかけよ。

また、入膳商店街歩道などのバリアフリー化や町民会館のエレベーター、役場周辺の点字ブロック設置など、公共施設のバリアフリー化を検討すべきだ。

小森建設課長 リフトはJRに働きかけたい。役場周辺の公共施設は、状況を調査しながら対応する。



リフト設置が要望される階段 (JR入善駅)



## 新幹線と将来の町づくりを どのように考えるか

東 狐 和 議員



### 町 長 町を含め新川地域の活性化につなげたい

問 北陸新幹線の開業もあと10年に迫った。「新黒部駅」(仮称)へのアクセス道路はどうするか。

町長 新幹線沿線で県営農免農道整備事業が進んでおり、今後も新川2市3町の首長で構成する「新川中部地区農免農道整備事業推進協議会」などで推進を要望していく。

問 新幹線開業が町や新川地域の活性化の起爆剤となるのか。

首都圏に地方の活力が吸い取られる「ストロー現象」の対策はどうか。

町長 先日、県は、活性化の起爆剤とする「みらいとやま戦略会議」の初会合を開いた。民間主導型の戦略プランが必要になる。

平行在来線の経営分離はどうなるのか

町民の利便性の確保が第一

問 新幹線建設費の地元負担や、平行在来線の経営分離についてはどうなるのか。

町長 負担は、JRや国、県および新駅の所在地で行い、入善町にはない。

在来線は、県を軸に市町村

や地元企業などの出資による第3セクターで運営する見込みだ。具体的な枠組などは今後、協議会で明らかにする。

町としては、町民の通勤・通学の足の確保を第一にし、柔軟なダイヤ編成など、町民の利便性が向上する運営を働きかけていく。

学校での情報環境整備とその成果はどうか

「しらべ学習」で意欲が向上

問 町の小中学校の全てにコンピュータ教室が整備され、335台のパソコンが導入されているが、その成果はどうか。

学校教育課長 パソコンを利用した「しらべ学習」の意欲の向上が図られている。中学校では、小学校で習得したノウハウを用いて、情報教育を取入れている。

今後、IT社会における道徳教育も重視していく。

有害カラス対策は

猟友会と相談しながら効果的な駆除を検討したい

問 カラスによる被害が目に見えない黄色のごみ袋を使っているかどうか。

人まで襲うこともあり、駆除も止むを得ないのでは。

西田住民環境課長 有害鳥獣駆除隊員の協力を得ながら、効果的な駆除方法を検討し、要望に応えたい。黄色のごみ袋も検討したい。

どうする少子化対策

子宝支援や小3までの医療費無料などを行う

問 底なしの少子化時代が到来した。働く女性に育児、家庭、介護の重い負担の軽減を図る具体策を検討せよ。

健康福祉課長 男女共同参画事業に力を入れ、男性の意識改革を促し、女性の負担軽減を図る必要がある。

町では子宝支援や小3までの医療費を無料にし、経済的支援を行っていく。



有害鳥獣駆除隊員



## 公共下水道整備後の町基幹事業は何か

佐藤 一仁 議員

### 町長 長期的な大型事業は想定していない

問 入善町総合計画の後期計画のなかで、下水道整備事業後の町の基幹事業は何か。

町長 平成18年からの後期5カ年の基本計画の策定中だ。引き続き、人・土・水を生かし、施策の重点化を図る。長期的な大型事業は想定していないが、町民の視点にたった事業を計画的に進める。

分割排砂など、意見・要望は伝わっているか

国交省や関電に伝えている

問 平成17年度の黒部川排砂計画はどうなっているか。

昨年意見や要望は土砂管理協議会や排砂評価委員会に伝わっているか。

建設課長 5月23日の土砂管

理協議会で、今年度の計画案を確認、承認された。

今年度は、昨年より1.7倍、48万㎡の排出を計画しているが、昨年12月の時点の測量をもとにしているため、排出量は増える可能性がある。

これまでの意見や要望は国交省、関西電力に伝えている。また、排砂関係連絡会、評価委員会、土砂管理協議会にも事前打合せの場で伝えている。

「市街地うるおい事業」の基本方針は何か

入善駅から入善PAを結んだ範囲の活性化を目指す

問 商業者に対しての町の支援策は何か。

「市街地うるおい事業」での建設施設は、商店街や商業振興にどのような役割を果たすのか。

商工水産・深層水課長

「入善町商品券」の発行や中心市街地と舟見地区の街路灯設置に対する補助などを行った。

また、「入善ふるさと七夕まつり」や「まつりんびつく」、「ラーメンまつり」などにも

支援し、商工会や商店街と一体となって取り組んでいる。

個人商業者へは、低利融資に対する補償料補てんなどで支援している。

「市街地うるおい事業」は、本年4月に国土交通省の「まちづくり交付金事業」の採択を受けた。

JR入善駅から北陸自動車道入善PAを結んだ範囲の地域活性化を目指す。

市街地においては、「うるおい館(仮称)」の建設を計画している。

やすらぎ・交流の拠点となるよう、建設検討委員会で施設機能や商業機能を検証する予定だ。



横山海岸の緩傾斜堤

# 一般質問



## 補助対象外となる兼業農家を どう「担い手」に参加させるか

中瀬 範 幸 議員

町 長

### 強制できるものではなく集落のなかで 合意に基づき実施するもの

問 3月に閣議決定された新農村基本計画では、農業の「担い手」を支援する経営施策が大きな柱と位置づけられている。

町内での「担い手」の育成状況と経営課題は明確になっているか。

また、平成19年度から、町農地の83・7%に及ぶ兼業農家の耕作地が、補助対象外となるといわれる。早急に各農家が、「担い手」に参加できる方策を考えよ。

町長 経営規模要件を、認定農業者4haとすれば42名、集落営農20haとすれば4組織が「担い手」として該当する。

今後、兼業農家や高齢者農家の受け皿として、集落営農の組織化や認定農業者の育成が急務と考える。

ただ、集落営農は、県や町が強制できるものではなく、集落のなかで、合意に基づき実現するものと受止めている。

「入善ブランド米」として商品価値を高め販売せよ

関係団体と実現の可能性について協議し進める

問 入善産コシヒカリの品質は、1等比率91%、食味も良く、高い評価である。

さらに、無洗米加工など付加価値をつけ、「入善ブランド米」として商品価値を高め販売できないか。

農政課長 米に付加価値をつけるため、JA入善町と共に「減農薬米」や「つぶぞろい」のPRに取り組んでいる。

全国には、発芽玄米や胚芽玄米を商品化している地域もある。今後、JAなど関係団体と実現の可能性について協議を進める。

複合経営作物としての「入善ブランド」育成を

関係機関と連携を図り進めていく

問 農家の収益確保には冬期間を含めた通年型の複合経営が不可欠である。

ジャンボ西瓜、チューリップなど全国区の「入善ブランド」を守り、育成せよ。

いちご、桃など収益性の高い果樹栽培も有望と言われている。その普及を図れ。

農政課長 町の特産物としてチューリップやジャンボ西瓜

はもとより、トマト、キュウリ、白ねぎ、花卉、鉢物などが位置づけられる。

どのような付加価値を付けてブランド化を図るか、各生産組合、農業公社などと連携し検討を進めている。

さらに、3割近い転作をカバーする新たな「入善ブランド」となり得る新しい品種として、桃など果樹栽培にも取り組み始めた。

現状では非常に難しいものがある。生産者、JA、普及指導センターなど関係機関と連携を図りながら、検討していく。

「定年帰農」者を受け入れられる体制を整備せよ  
「アグリ助っ人センター」の準備委員会を設ける

問 都市生活者対象のアンケートでは、50歳代の4割を超える人が「ふるさと暮らし」を希望しており、「定年帰農」という言葉が生まれた。

町でも、Uターン、Iターン者を受け入れる体制整備をするべきと思うが、考えを示せ。

農政課長 就農支援のための「アグリ助っ人センター」(仮称)を設立するため、準備委員会を設けて検討する。



入善ブランドのジャンボ西瓜



町長

## 黒部川土砂管理協議会に漁業・農業の代表を入れよ

本多 幸男 議員

### 関係団体に事前説明し、意見を聞き協議会に報告されている

問 協議会メンバーの構成を見ると4人の首長を除けば全ての関係者はダムの持ち主と発電所の幹部である。このような協議会で公平な議論が期待できると思うか。

ある漁業者、農業者の代表を参加させるよう働きかけよ。  
町長 協議会の開催に当たって関係団体に事前説明と意見聴取の場を設けているので、そのなかで要望、意見を十分に反映していただきたい。

昨年までの排砂の反省点は  
は  
環境影響緩和策の効果が小さかったことと農業用水が長時間停止したこと

問 昨年までの排砂を振り返って反省点はないか。

町長 排砂後、環境影響緩和策として、宇奈月ダム下流河川に、3時間程度で毎秒300m<sup>3</sup>の小規模出水を行い、河川内の土砂の局部堆積防止を図る計画であった。  
しかし、排砂時の出水が大ききく、小規模出水の中止せざるを得なく、効果が小さかった。

農業用水の取水停止時間が長く、その短縮が求められており、今年度は夜間でも取水の再開が出来るよう新たな判断基準を設け、昨年度の反省

点を克服したい。

17年度の排砂計画は万全か  
排砂評価委員会の指導・助言のもと、合意・承認・条件を整えば実施する

問 去る5月23日、黒部川土砂管理協議会が開催され、今年度の排砂目標を48万m<sup>3</sup>とすることなど排砂計画を決定した。

入善町のただ一人正規の委員として出席している町長は、この排砂計画を万全と思うか。

また、この協議会の席上で町の漁業者、農業者、並びに住民の要望事項をどのように発言したか。

町長 排砂計画は、評価委員会の指導、助言のもとに関係団体の意見も多く取入れ、審議決定されたものであり、条

件を整えば排砂を実施する。

また漁業者、農業者、地域住民の要望については、今年度計画のなかで実施可能なものは実施し、今後も検討していく。

建設課長 今年度の排砂では、漁業者の要望に基づいて次のことを行う。

- ①海の濁りの拡散範囲を考察するため、黒部川と他の河川の底質の比較調査。
- ②排砂と魚の生息への影響調査のため、調査箇所を増加を図りその精度を高める。



排砂濁流の合口用水取水口附近（6月28日）



## 今後の「担い手」対策としての 集落営農設置推進は

山下 勇 議員

農政課長

集落で合意された場合は協力する



入善漁港に入り込んだ流木（6月28日）

問 農業情勢は特に厳しく、国の政策では、認定農家や集落営農組織による「担い手」の育成が強く求められている。町はどう対応するのか。

農政課長 「食料、農業農村計画」が3月に閣議決定された。そのなかで、町農業に影響を与えるのが「品目横断直

定農業者と集落営農組織の具体的要件は、今秋までに決まる予定である。入善水田ビジョンでは各集落から「担い手」としてリストアップしているが、国の基準に満たない農家も多数あり規模の拡大が急がれる。中核的な「担い手」農家のいない集落では、兼業農家、高齢者農家の受け皿として、集落営農の組織化、法人化が大切である。

今後、集落で合意形成がなされた場合には、関係機関が一丸となって協力をする。問 農業の組織化、助成などに振興策をとるべきだが、県の営農設置事業は1から2カ所と聞いている。助成を受けられない集落には、町が単独でも支援すべきだ。

農政課長 県の集落営農を組織化するときの補助事業や、ただ一つのハード事業である「水田農業経営体活性化対策事業」には、非常に多くの要望がある。町としても少しでも多く要望を実現するよう県に働きかけていく。

ダム排砂による農業への影響は  
昨年断水期の苦情があり  
対応策を申し入れた

問 昨年のダム排砂が稲作の穂肥時期に実施されたため、農業にかなりの影響が出た。今年は昨年の倍の48万㎡の排砂が実施される計画だが、稲作農家、漁業者団体、流域住民などに配慮が必要だ。町長 水稲の施肥時における断水であったことから多くの苦情があり、町としても今後

\*水田農業経営体活性化対策  
県単独事業で集落営農組織、個別経営や法人経営などの育成や経営規模の拡大による経営体質強化に必要な農業機械施設の導入に支援する制度。

\*品目横断的政策  
今までのような個々の作物に対しての助成ではなく、経営全体に着目して複数の作物の組み合わせによる営農経営に支援するもの。



## 津波対策にも有効な防災林の整備促進を

松田俊弘 議員

建設課長

重点事業として県に強く働きかける

問 地震学者の指摘では、魚津断層帯の活断層が、町の市街地を通っている可能性が高い。また、東海・東南海地震などの影響で震度5強の揺れも予想され、液状化による水

道や下水道の対策を検討すべきだ。

自主防災組織は住民のつながりを基本とし、地域の実態に合わせた細かな組織づくりが必要だ。

余震があれば、被災者は家に近づけない。町は、非常用の食料や飲料水を備蓄すべきだ。

中島総務課長 液状化によるライフラインの防災対策は、今後の魚津断層帯の調査結果を注視し対策を検討する。

自主防災組織は、連絡協議会の設置や、町内会の小さな単位での組織も検討していく必要がある。

食料や飲料水は3日程度を各家庭で備えてほしい。

問 小学校の耐震診断、耐震補強は進められているが、保育所も急ぐべきだ。

健康福祉課長 これまで保育所は、耐震診断などは実施してこなかったが、必要性も検討し施設整備を進めたい。

問 防災林は津波対策にも有効と考える。整備促進を県や国に働きかけるべきだ。

建設課長 効果があれば一層の整備が必要で、今後も重点事業として強く働きかける。

アワビ養殖は中止も視野に入れた対応を

町の特産として、販路の拡大などで支援する

問 当初800円で販売する計画のアワビが400円程度でしか売れない。これまで町は、漁協の赤字補てんに5000万円を提供し、1000万円を投資し再実験を行った。漁業者と町民の利益を考えれば、中止も視野に入れ対応すべきだ。

商工水産・深層水課長 漁協では、外国産のアワビに価格面で太刀打ちできないなど、メドが立たないとのこと、町に支援を要請している。

町の特産品として、販路の

拡大による支援をしていく。

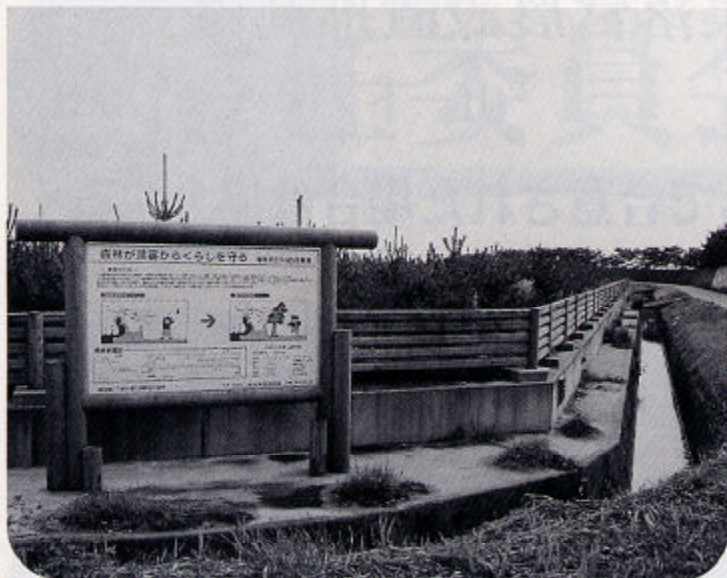
下水道接続工事での住宅改修に補助を

現状では困難

問 下水道接続工事は、トイレの改修や配管による改築などで大きな出費がともない、工事をためらう人がいる。

一定収入以下の世帯を対象にした、水洗化にともなう住宅改修の補助制度を検討すべきだ。

西川下水道課長 低所得者の実態把握などについて、パイプシーといった問題もあるので、現状においては困難と考える。



植樹された防災林（木根地内）

## 災害ハザードマップの避難所は最も身近な所に

大橋 美椰子 議員



### 町長 安否確認などから町内単位とした

問 黒部川流域洪水ハザードマップ原案には、避難場所への地区割りが示されているが、遠くの避難場所へ回される地域があり、無理がある。

避難住民の掌握を優先する区割りでなく、住民の側に立ったものにすべきだ。

町長 避難所の収容能力や連絡体制、安否確認の観点などから、町内単位とした。

いざという時は、地区が違って、最も身近な場所へ避難することは止むを得ない。

避難場所を示めす看板は



避難所を示めす看板

もっと大きく、字も常に鮮明にすべきだ。

総務課長 できるだけ看板は大きく、字も鮮明にしたい。

食育の積極的推進を  
食育で食生活改善に努める

問 学校給食検討委員会が設置されたが、「給食の合理的運営のあり方」だけを検討するように思える。

この委員会から「食育」の積極的推進を願う。

学校教育課長 学校給食は、子どもを教育する上での大きな手段の一つである。

学校現場では、食生活の問題も重視して指導する必要がある。食育の積極的な実施を通じて、食生活が改善できるよう取り組む。

シックスクールの対策を強化せよ  
西中学校の整備にあたり、十分に留意する

問 新築や改修した校舎の建材や塗料、パソコンなどから放散される科学物質により、感覚器症状や精神症状などを含む多様な症状を引起す。

このような、シックスクール問題が起きないように、万全の対策を望む。

学校教育課長 シックスクール問題とは、学校施設に起因する様々な化学物質に汚染された空気によって、体調不良を引き起こすことである。

症状は、多岐にわたり個人差が大きく、原因物質も多種多様である。

建築基準法では、シックハウス対策を行うよう定めている。

町は、学校改修などの整備に当たっては、原因となる材料を使用しないよう注意している。西中学校の整備では、十分留意し進める。

「地域ボランティア活動推進事業」で防犯パトロールを

事業とは別に防犯パトロール隊の結成に支援する

問 「地域ボランティア活動推進事業」は、小学校下防犯パトロールも兼ねるべきだ。

泉生涯学習・スポーツ課長 国の委託事業として本年度スタートしたが、あいさつ運動や清掃活動など3つの事業が軸となる。

地域での話し合いのもとで、地域密着型の防犯パトロール隊が各地区、各校下単位で結成されるよう支援したい。

# 脱サラし理想の「百姓」をめざす

入善町に移り住んで



ひやしきゅうせい  
百石周生さん

入善町西中

亡き父の後を継いで就農し、2年目となりました。現在は野菜作を中心とした複合経営を行っています。

就農当初、諸先輩の方々から「おもしろいけどねえ」とか、「棘の道だよ」云々、脅しのような言葉をいただきましたが、あれから1年余、その言葉の意味は経験を通し実感しています。

毎日刻々と成長する農作物が相手なので、なかなか休みが取れませんし、サラリーマン時代のように、働いた分だけ収入があるわけでもありません。諸経費を差し引けば手元に何も残らないこともあります。

大変な仕事ですが、それでも、私は就農して後悔したことはありません。なぜなら、農業は単純におもしろいからです。種から育てた野菜を、

出荷できるまでに成長する過程は、まるで一つの物語のようです。

日々新しい発見をしながら、懐は寂しいけれど心は満たされています。食べ物を作っていますから、お金はなくても飢えることはないでしょう。これから先、きっと様々な苦難と向き合うはずですが、あまり考え込まず、「どうにかなるさ」の精神で乗り越えていきたいと思っています。

「百姓」という言葉が表すように、農業をするには様々な能力を身につける必要があります。農に携わる者として、出来るだけ多くの知識・技能・経験を心得、自分の理想とする「百姓」になれるよう、日々楽しみながら努力していきたいと思えます。父や祖父がそうであったように、これは一生の仕事となるでしょう。

## 入善のむかし話 (森 清松編より)

病気をなおすつけものなす

小杉の高見四郎左衛門の祖先が、ある晩、神様から夢のおつけをうけました。

「土間のはしこの下に、なすのはいつた、おれが一本ながれているから、それをひろってきて、土間のなすをつけて、人の病気をなおしてやれよ。なすは毎日つけるが、桶は決して洗ってはいけない。」

と、いうのです。つぎの朝、行ってみると、やっぱり土間になすのはいつたかますがありました。川上に桶も流れてきていました。

さっそく拾ってきて、夢のおつけ通り、その桶でなすをつけ、体のいたい人に食べさせると、わすれたようにいたみが取れました。

高見さんは、毎年、それをつづけ、いつつけ通り、けつして桶を洗わないで、病人をなおしているということです。

本誌で町民の皆さんにご愛読していただいている「入善のむかし話」の著者 森清松氏は、去る6月2日にご逝去されました。謹んでおくやみ申し上げます。

## 編集の窓

万緑が天地を彩る季節を迎え、入善町の姉妹都市・米オレゴン州のフォレストグローブ市の使節団が、6月21日来町しました。

訪れたのは市長のほか、市議会議員、大学教員ら一行8人です。

町とフォレスト市は友好提携以来16年目を迎える来町は今回9回目です。町も中学生をこれまで13回、延べ1500人派遣して相互訪問を続けています。

一行は26日までホームステイしながら海洋深層水活用施設、コスモホール、総合体育館を視察され、黒部峡谷なども訪れて町民との交流を進めました。

今後も一層の国際交流を進めたいものです。

### 議会広報編集特別委員会

- |      |       |
|------|-------|
| 議長   | 元島 正隆 |
| 委員長  | 中瀬 範幸 |
| 副委員長 | 松田 俊弘 |
| 委員   | 佐藤 一仁 |
| 委員   | 長田 武志 |
| 委員   | 上田 健次 |
| 委員   | 東狐 和  |